

女性経営者の草分けとして――

創業45周年

桜ゴルフ社長 佐川八重子の

「しなやかに戦い続ける」経営

〔第4回〕

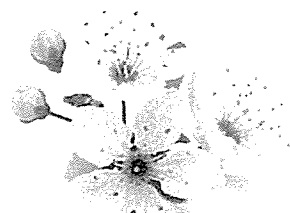


「勝者意識の
抜けなかった私が、
初めて敗者の気持ちを
知ったのが、
ゴルフ場経営の挫折でした」

創業10周年を機に、ゴルフ場経営に乗り出した佐川氏。だが、経営参画わずか1年半で、共同経営者の不実で、経営から退くことになる。しかし、初めての「挫折から得られたもの」の大きさは計り知れない」と佐川氏は語る。

さがわ・やえこ

1944年千葉県生まれ。63年文化服装学院本科修了、ゴルフ会員権販売会社2社を経て、70年桜ゴルフ創業。東京ニュービジネス協議会創立メンバー、東京産業人クラブ常任理事。



自らの商品を持ちたいと
進出したゴルフ場経営

―― 創業から順調に事業を
拡大してきた佐川さんですが、
壁にぶつかる経験もあったので
は？

佐川 45年の歴史ですから、
景気の山を2度、谷を3度見ま
した。最初の谷は、創業期の生

みの苦しみ。2度目は、新規ゴ
ルフ場の挫折。3度目は、バブ
ル崩壊後の今も続く深い谷で
しょうか。しかし、2度目の新
規ゴルフ場の挫折が、私の人生
の最大の出来事でした。

昭和55年（1980年）、会
社設立10周年の集大成として、
ゴルフ場事業に進出しました。

―― ゴルフ場を始めようと
した理由は？

佐川 2度にわたるオイルショッ
クを凌ぐ中、どんな
にいい仕事をして
も人様の商品やれ
ばやるだけむなし
さが募り、「わが商
品」を持ちたいとい
う気持ちになって
いました。

そこに「ソニー
さんが援助してい
るゴルフ場が途中
で止まっている。佐
川さんならそれを
起こすことができる
のではないか」

と、そんな話が私のところに舞
い込んできたのです。

「場所が御殿場の富士山を望
む一等地にあり、これほどの材
料は他にない。ただし、そこ
には経営者がいるので、共同経営
で参画してはどうか」というお
誘いでした。

億単位の別途資金を求められ
ましたが、持ち込まれた方が信
用のおける方でしたので、白羽
の矢が私に向いてきたと判断
し、株式の50%を購入。副社長
に就任しました。

―― 共同経営はうまくいき
ましたか？

佐川 元々そのゴルフ場
は、元三井銀行や東京電力の有
力な方々が残っていて、大変心
強い協力者ではありましたが、
当の社長がほとんど何もし
ない方で、私は会員募集の他、
銀行交渉、建設会社交渉、地元
対策までやらなければならず、
共同経営に暗雲が垂れ込めてき
たのです。

どんなに材料が良くてもこれ
では何も進まない。頭を悩ます

毎日でした。

―― 新規会員募集はどうで
したか？

佐川 初めてのゴルフ場進出
ということもあって、会員には
日本銀行、元日本興業銀行の幹
部をはじめ、金融界を中心とす
る錚々たる方々が100名顔を
そろえてくださいました。誰一
人とってもゴルフ場の理事長に
なれるような方ばかりでした。

会員への道義的責任を感じ
14年かけてお金を返済

―― それなのになぜ撤退を
したのですか？

佐川 夢にまで見たゴルフ
場経営でしたが、共同経営者が
持ち株を第三者に売却すると
いった背信行為により、やむな
く1年半で経営から手を引く羽
目になりました。私が優位にな
ることへの恐れだったと思われ
ますが、本当に残念でした。

合わせて、入会頂いた会員に
対する多額の返済義務を負うこ
とになったのです。果たして6
億円のお金を返すことができ



富士を背景にゴルフ場を夢見る



高松宮妃癌研究基金 研究費贈呈式(1988年2月)にて

表すことのできない試練の日々でした。すべての清算を終えたとき、神の洗礼を受けたような清々しい気持ちになったことを思い出します。

—— 大
変な思いをしても頑張れた原動力は何でしたか？

るのだろうか。それは気の遠くなるような金額でした。

期待に応えられなかった慙愧の気持ちから、一度は死を考えたこともあります。家をはじめすべての資産を投げ打つても一部にしかならず、完済するには14年もかかりました。言葉には

り遂げなければならぬという使命感でしようか。これだけの経済人に応援されたのですから、迷惑はかけられない。私は上場したいという思いがありましたから、自分の人生に汚点を残せなかった。

—— ゴルフ場の挫折から学

仕事と社会奉仕の両立 その大切さを教えられる

—— 癌研究基金のボラン

これまでの、人をお呼びしてコンサルティングをするという待ちの営業手法から、出向いて「お頼み申し上げます」と頭を下げるのがセールスだと実感しました。

ティアをやっていたようですが、それはどんなものでしたか？

佐川 どん底から這い上がりつつある昭和60年(1985年)、日本発明振興協会の会長をしてもらった、海野幸保さんとの出会いがありました。

苦労人の海野さんから、仕事と社会奉仕の両立の大切さを教えられ、お勧めもあつて、「高松



1987年「日本プロゴルフマッチプレー選手権」。歴史に残る名勝負

宮妃癌研究基金」への支援を始めることになりました。

高松宮妃殿下にお目にかかり、その気品あふれる美しさに感動するとともに、癌征圧にかける尊いお気持ちにも心打たれました。

まだ厳しい返済の途中でしたが、本体の事業は多少なりとも好転してきたこともあり、このご縁を大切にしていきたいと、ささやかながらボランティアの再開となりました。

—— 佐川さんは若い頃から社会還元をされていたように思いました。

佐川 創立から3年で、高度成長も手伝ったのでしょう。売上高が30億円を超え、業界のトップになりました。当然ながら予想を超える利益も出て、怖くなったことを覚えています。

努力の結果得たものとはいえ、「このお金はどこかにお返しなくてはいけない」と罪の意識に駆られ、結局、私を育ててくれた田舎の母校と特別養護老人ホームに初めての寄付行為

をさせて頂いたことを思い出しました。今考えてみても、思い切りが良かったですね。若いときだったからこそ素直な気持ちでできたのでしょう。

—— 他に癌基金チャリティー事業も積極的でしたね。

佐川 昭和62年(1987年)には、癌研究基金協賛事業として、「日本プロゴルフマッチプレー選手権」の決勝戦をビデオ化できたことは光栄でした。尾崎将司・高橋勝成プロの歴史に残る名勝負はスポーツドラマとしてではなく、熱き人間ドラマとしても大変話題になりました。

また、その後、日刊工業新聞社に働きかけ、「日本産業人チャリティーゴルフ大会」が誕生。この大会は10年以上続きましたが、多くの産業人のご協力のもと、癌撲滅のための基金となりました。

80年代後半には 明るいニュースも

—— 80年代前半にはゴルフ

んだことは？

佐川 勝気な私から勝利者意識がなくなり、敗者の痛みや悲しみが、少しは理解できる人間になったようです。大切な小さな声も聞こえる素直さが身に付いたと思います。割の悪い方を取れる勇氣も——。

また、女一人では組織を動かす限界もあり、そのころから男性の活用を試みました。

場で大いぶ苦勞をされていますが、後半には、雑誌や新聞社から表彰されていましたね。

佐川 そうなんです。雑誌経済界が主催する経済界大賞のフラー賞を昭和60年(1985年)に受賞しました。

大変苦勞が多かった80年代前半でしたので、夢のような出来事で、ご褒美を頂いたような有難い気持ちでした。この時ほど泣けたことはありません。

また、日刊工業新聞社より、中堅・中小企業に贈られる優秀経営者顕彰の女性経営者賞を、昭和63年(1988年)に受賞することができました。

60年以降は、金融緩和を背景に財テクブームの中、ゴルフ会員権事業はバ



事業最盛期の佐川社長(1987年)